



ふ れ あ い

市長室



南あわじ市長 守本 憲弘

対話と行動の行政の更なる進化をめざして

秋も深まり、朝夕の冷え込みを感じるようになってきました。平素より南あわじ市政に格別のご理解とご協力をいただいておりますことに心からお礼申し上げます。

私が市長に就任させていただいてから5年目、就任時から「対話と行動の行政」を掲げて市政に取り組んできました。市民の皆さまと市役所が「対話」を通じて、まちづくりの目標を共有し、その実現に向けて共に行動していくことで、市民一人ひとりが魅力を持ち、市民主体の生き生きしたまちづくりができるはずと考えるからです。

このような本来あるべき行政を築き上げるために一番重要なことは、市役所の全職員が市民協働の理念を共有し、高い意欲を持って市民の皆さまと対話し、課題を発見・解決していくことです。

これまでも「最強の市役所」をめざして、幹部と力を合わせ、適切な行政の執行と人材育成に努めてまいりました。そうした中で、総合窓口センターの設置によるワンストップ窓口の実現や昨年以来の新型コロナウイルス感染症対策における、定額給付金の迅速な給付、産業界と二人三脚で実施している飲食の半額キャンペーン（ジモ得）をはじめとする消費活性化対策、医師会・歯科医師会の協力のもと円滑に進めることが

できた新型コロナワクチン接種など、市民の皆さまからも多くのお褒めの言葉をいただくことができました。これからも市民の皆さま、関係者の皆さまと協働してチャレンジし続け、南あわじ市を進化させていくため、職員は絶えず成長していかなければなりません。

本市では今年度から「人材育成室」を総務課内に設置し、職員の能力向上に強力に取り組もうとしています。その一つとして、来年度から導入することとしている目標管理制度は、すべての職員が「実現させたい南あわじ市の未来の姿」を共有し、日々の業務が「市がめざす姿」の実現にどう寄与しているかを考えながら、常により高い目標に向かって仕事を前進させていく取り組みです。

目標を達成する過程で様々な課題を乗り越えていくためには、職員一人ひとりの能力向上が必要となります。私自身も公務員としての職務を通じて習得してきた、対話の心構えや技術、課題解決の手法などを伝え、職員の成長をサポートします。また、職員が市民の皆さまとの対話を通じた地域課題の解決や生活向上への取り組みなど、果たすべき仕事に集中できる環境を整えるため、ICTの活用、ペーパーレス化など、業務全体の自動化・省力化の基盤を整備し、職員自らが新しい技術も取り入れながら業務改善への取り組みを加速していきます。

これからも市民の皆さまに「南あわじ市に住んで良かった」と感じていただけるよう、職員と一丸となって市政運営に取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

感染症対策にご協力をお願いします

- ・3密を避け、人と接する場合はマスクを着用する
- ・手洗いや手指の消毒を励行する
- ・室内や移動の車内などでは換気を十分に行う

産学連携ブランド山廃純米酒「志知」が誕生

昨秋、吉備国際大学の農場で学生たちが環境低負荷型の栽培法を実施し、減農薬・無肥料で丹精込めて栽培した稲「きぬむすめ」を多量収穫しました。

都美人酒造株式会社の久田社長と吉備国際大学前学長の眞山教授との間で「環境にやさしい清酒を製造しては」との思いが一致したことで、都美人酒造一吉備国際大学産学連携ブランド純米酒の製造プロジェクトがスタートしました。



純米酒の名称は、農学部キャンパスが立地する志知の地名に因んだもので、大学らしく高度な「知識と知恵」の涵養を志すことを認識させるものとして、加計美也子順正学園専務理事（前理事長）が命名しました。また、表ラベルのデザインは南あわじ市の花「水仙」をモチーフにしており、本学アニメーション文化学部の佐々木洋准教授の作で、同学部の金叡媛講師の援助も得ました。

こうして、農学部の米、都美人酒造の技術・開発力、農学部のみならず大学の持つ資源が結集し、産学連携ブランド山廃純米酒「志知」が誕生しました。



名譽賞を受賞した「たまみ」と前川さん

第17回南あわじ市畜産共進会（和牛の部）が9月28日、文化体育館大駐車場で開催されました。市内各地から黒毛和種67頭が出品され、資質と体形美を競い合ったほか、農業功労者の表彰がありました。

◆共進会入賞者一覧（敬称略）
名譽賞Ⅱ たまみ（前川卓也・松帆） 最優秀賞Ⅱ まりりん（仲岡建太郎・市）、わか（坂部充宥・阿万）、ひろの（福原繁明・津井）、みつふく（森崎栄義・広田）、かねはる（谷川一宏・阿万）、ももか（前田隆・松帆）
◆南あわじ市農業功労者表彰（敬称略）
和牛部門Ⅱ 近藤晴次（榎列）、原匠（津井）
蔬菜部門Ⅱ 田村進（神代）、鴻松清志（北阿万）

牛たちの資質・体形美を競う 畜産共進会を開催



生徒たちにトスのあげ方を教える齋藤さん、狩野さん、益子さん（左から）

小中学生がスポーツなどを通して努力や友達の大切さを感じ、大きな夢を持って活動することで、豊かな生活を送ってもらおうと、著名なスポーツ選手や文化人らを講師に招いて行われる「夢プロジェクト」。9月29日に女子バレーボール元日本代表の益子直美さんと齋藤真由美さん、狩野舞子さん

が倭文中学校を訪れ、在校生にエールを送りました。来年3月に閉校となる同校の在校生は3年生の女子3人。益子さんらは生徒たちと対話し、自らの現役時代の経験や引退後の活動などの話を通じて、スポーツの楽しさや人とのつながり、好きなことを続けることの大切さについて語りました。

倭文中で「夢プロジェクト」 バレー元日本代表3人がエール

子育て支援のために 明治安田生命から寄付



明治安田生命保険相互会社神戸支社の瀧野瀬支社長(右)と守本市長

明治安田生命保険相互会社神戸支社から、市に70万9000円の寄付がありました。寄付は同社の「地の元気プロジェクト」による従業員募金と会社拠出金からのもので、子育て支援に役立てます。10月1日、市役所で贈呈式が行われ、同社の瀧野瀬雅夫支社長から守本市長に目録が手渡されました。



ワクチンの接種を行う医師

地域の負担を減らし、現役世代を中心に新型コロナウィルスワクチン接種の加速を図るため、南あわじ市商工会と淡路島観光協会南あわじ地区会が、職域接種を行いました。1回目（8月25～31日）1222人、2回目（9月22～28日）1203人、延べ2425人への接種が行われました。

新型コロナワクチン 市内275事業所に職域接種